

ノミ他ニ補備スル者ナク薄情ナル北京人ノ中ニ殘シ置キタリ、
 當時支那國中ノ人心穩カナラス憂フ可キ情態ナリ我陣營ノ近村ニハ、
 惡漢徘徊シテ土人ヲ苦シム此輩果物及ヒ諸品ヲ持來テ之ヲ鬻グト雖
 モ其實ハ則チ否ラス、其道ニ貴貨アレハ之ヲ盜ミ去ラント欲スルナ
 リ、
 此時ニ當テ天日々ニ寒ク朝ハ寒暑計二十九度ニ降り終日氷霜解ケス、
 吾輩ノ住メル弊屋ハ穢レタル紙ヲ以テ窓ヲ閉キタレハ寒氣堪ヘ難ク、
 將ニ生命ニ害アラントス吾輩此都下ニ厭キ見ル所皆汚穢ニシテ道路
 凸凹人民寒貧ナレハ殆、退屈ヲ覺ユルニ至レリ故ニ九日マテ出發ノ延
 ヒタルハ實ニ憂フ可キナリ此日ニ至ルマテ此ニ止リタル兵隊ハ施條

銃隊第十五「ナンシー」兵隊「プロビン」及ヒ「フエトン」騎兵隊「バルリ」
 部下ノ砲隊等ノ諸隊ト共ニ本日天津ニ出發ス行李ハ午前八時府外ナル
 地神堂ニ集ム可キノ令アリ此所ニ旅裝ヲ成シ二時間ヲ過キテ後ニ此
 行李ヲ發シ行軍ノ前ニ出テタリ「ロルト」イルシン及ヒ附屬ノ者ハ第九
 十九聯隊第七十五「シークス」騎兵隊第二十五「ナンシー」隊「バルリ」
 部下砲隊ノ「アームストロング」砲二門ト共ニ府下ノ「チンチェー」門ヲ出
 テ直チニ石道ニ從ヒ進テ「チンコウ」ニ至リ是ヨリ「ロルト」イルシンハ船
 ニ乘テ天津ニ赴ク同時ニ佛兵モ亦北京ヲ去リタレハ英佛二國ノ總代
 ハタル「アトキンス」氏ノ寂寞ハ實ニ察ス可シ同氏ト親友タル可キ者ハ
 獨リ魯國弘教師アルノミ

余輩ハ陣營ヲ出テ、行李ヲ集メタル處ニ屯シタル施條銃隊ノ一分隊ト
 共ニ進テ、所謂ル八里橋ヲ渡リ、其夜對岸ニ次リ、翌朝我縱隊ニロルトイ
 ルジンノ護衛兵ヲ加ヘ、且ツチンコーヨリ上陸シタル水兵ニ合シ、チャン
チーワンヲ渡リテ、此處ニ屯シタル「フェーン」騎兵ニ會シ、余輩ハ其夜マ
トウニ宿シ、總督ハ船ニテ天津ニ急キ赴キタリ、翌日ノ行軍ホシ「ウー
 ニ到ル、此地ハ猶ホ今我三十一聯隊ノ守ル所ナリ、第十五「ブン」ジョー「ピー」
 兵隊「フェーン」騎兵及ヒハルレイ部下ノ大砲一座ハ、一二日此地ニ止ル、
 是レ天津ニ幅濠シテ羣集スル兵隊ノ乗船スルヲ俟ツナリ、此餘ノ諸隊
 ハ猶退行シ、又二日半ニシテ安全ニ天津ニ着陣ス、此地ニ於テ陣營總監
 シ官署大軍ヲ乗船セシムルカ爲メニ頗ル繁劇ナリ、未タ二週ヲラスシ

テ故障ナク滯港ノ總軍悉ク乗船シ、施條銃隊第六十七聯隊及ヒ「フェーン」
 騎兵ハ天津ノ兵營及ヒ太沽城ニ屯シ、ブリガタール、ステウリイ之ヲ總
 督ス、領事館ヨリ借タル通辨官ノ内モンガン氏一人ハ止リテ屯兵ニ附
 屬シ、ダウエン「ポルト」氏ハ芝罘港ノ沖ナルミウタウ島ニ碇泊シテ、冬ヲ越
 ス可キ命ヲ受ケタル海軍船隊ニ附屬ス、其他ハ予ト共ニ海陸軍ノ兵籍
 ヲ離レ、英國公使ニ歸港ヲ報スヘキノ令アリ、
 此時寒氣日々ニ増ス、甚シク寒暑針數日ノ間十五度ニ止マリ、凍氷江
 水ヲ覆フ、最後ノ砲船一隻氷ヲ破リ出帆セント欲シテ、遂ニ破ル能ハス、
 僅ニ狹隘ナル路ヲ開キテ歸港ス、故ニ予南方ニ公務アルヲ以テ此地ヲ
 出發スベキノ命ヲ受ケタルハ敢テ憂フ可キニ非ス、本營ノ將士ハ既ニ

天津ノ事務ヲ終ヘテ太沽城ニ進發ス、セキターールハ二十九日出發ス可
キカ故ニ予ヲ以テ其通辨官ト爲サンコヲ欲シ其許可ヲ得シ故ニ予ハ
悦テ從行シタリ、

此旅行ノ初夜ハ、キクローニ宿シ、次日午前太沽ニ着シ、既ニシテブリース
氏ヨリ水師提督ニ書翰ヲ贈ランカ爲メニ、予蒸氣船ライトニ乗ク
乗シテ香港ニ往ク可キノ命ヲ受ク、此日早朝ハ寒氣殊ニ嚴シク、キクロー
ヲ發シ左右ニ樹園アル路ヲ通り城ニ至ラントスル時、霜降テ予カ衣ニ
結フ、皇天造化ノ美艶ナル人心ヲ悦ハシムルノ光景ハ、巧ニアムプロー
ス、フキリップズカ絶妙ナル詩ニ言ヒ盡シタリ、

詩アリ云ク

水澤ニ生スル蘆葦ノ稠密ナルハ戰場ニ槍刀ノ閃クカト疑ハレ

椽樹ノ霄漢ヲ凌キ又四邊ニ披起スルハ城郭ノ天ニ聳ヘタルカト

訝カル

斜陽ニ映スル枝葉ハ自カラ風雨ヲ作シ衆鳥ヲ驚カス

此ニ戦争纒カニ終リ、因テ前日ヲ回想スルニ、一ノ不義ナキ能ハサレハ、
今者ノ戦争ハ、其全體ニ瑕疵ナシト謂フ可キニ非サレハ、其功業ヲ論ス
レハ、實ニ盛大ト言フ可ク、故ニ此舉タルヤ、其費用ノ多キ殆ント算計ス
可カラズト雖モ、又大ニ余輩ノ志ヲ達スルニ至レリ、是ヨリ先キ、支那政
府ハ敢テ交易ノ利ヲ知ラサルニ非ラサレハ、其政ヲ爲スヤ猜忌鄙吝ヲ
兼テ併セ、常ニ謂ラク我本朝ノ此土地人民ヲ有スルヤ、固ト詭計ト狡智

ヲ用ヒ、以テ纒カニ奪略セシニ在レハ、西洋開化ノ說漸ニ東スル時ハ、或
 ハ此土地人民ヲ失フモ亦測ル可カラスト、因テ其利ニ趨リ交易ヲ好ム
 人民ノ西人ト交通シ、以テ後害ヲ遺スヲ恐レ、敢テ交通ノ自由ヲ得サレ
 シメ、而シテ我西人ヲ遇スル、恰モ寇讎ヲ待ツカ如ク、啗ニ之ヲ踐蹴スル
 ノミナラス、更ニ夷狄ノ惡名ヲ下シ、縱令交易ヲ許ルスモ、交易ニ從事ス
 ル者ハ、擧グテ之ヲ賤マザルナク、其事情大約如此ナレトモ、我西人ノ之ヲ
 忍ヒ、敢テ其權ヲ張ラサリシハ、要スルニ其處置ヲ失セシ者タリ、然ルニ
 此度ノ擧ニ因リ、支那トノ交易一新ノ時ヲ得ルニ及ヒ、殊ニ彼ノ京師ノ如
 キハ、頑論僻說ノ淵源トモ稱ス可キカ故ニ、從前ハ敢テ近ツク可カラス、
 敢テ犯カス可カラサル者トナセシカ、此度ハ英佛兩軍ノ陣門ニ屈服シ

テ敢テ抵抗スル能ハス、彼ノ猾智ヲ逞ウスル支那帝モ、西人ノ勒索ニ從
 ヒ、以テ條約書ヲ作り、西人ニ特許ヲ與フルニ至レリ、是レ實ニ西人ノ矜
 ルニ足ル者トス、

此度南支那ノ人ハ、大約以爲ラク、西人必ラス北支那ニ於テ敗テ取ラン
 ト、因テ廣東ノ會館ニ在テハ、支那城砦ノ攻畧ニ逢フ可カラサルヲ信シ、
 洋銀五萬弗ヲ以テ賭セント言ヒ、且ツ曰ク、其洋銀五萬弗ハ之ヲ在香港
 ノ東洋銀行ニ藏シ、事ノ決スルヲ待テ勝賭ノ者之ヲ取ル可シト、此ニ怪
 シム可キハ、我大英ノ商人モ本國ノ兵力ヲ全ク頼ミ難シト思ヒシニヤ、
 敢テ錢ヲ賭スル者ナク、唯アメリカ人ニ三名來テ英佛ニ左袒セシカ、此
 人モ亦其賭セント爲ス錢ハ、一萬弗以下ニ在リ、廣東ノ會館ハ之ヲ辭シ

テ曰ク前ニ言フ如ク、五萬弗ニ非サレハ、錢ヲ賭クルヲ願ハズト、抑廣東人ハ政事上ニ付キ、又貿易上ニ付キ、北支那ノ戦争ヲ懸念シ、殊ニ一箇ノ會社ハ、英佛兩軍ノ動靜ヲ知ル、頗ル詳悉ナリシカ、其會社ノ長ハ、其兄弟ノ天津近邑ニ在ルカ故ニ、今者其邊ノ事情ハ、皆之ヲ其會社ニ通シ、且ツ凡ソ北支那ニ起リシ事件ハ、必ス十二日內ニ達セサルヲナク、而シテ之ヲ報知スルノ方法ハ、早飛脚ニ附シ、其道程英法一千三百里ナルヲ、僅カ十二日間ニ報送セシハ、實ニ驚クニ堪ヘタリ、是故ニ今者ノ事由ハ、廣東ノ支那人等其報知香港ニ達スル前、既ニ之ヲ傳聞セシカ、爰ニ又廣東ニアル大英領事館ノ通辦官ベツトル氏ハ、此會社ト懇意ナルニ因リ、報知ノ到來スル時ハ、直チニ之ヲ聞クヲ得テ、諸般ノ事皆廣東ノ領事館ヲ經テ、

之ヲ大英ノ外務局及ヒプリューズ氏ニ達シタリ、而シテ此報知ハ、總テ他所ヨリ來ル注進ヨリ尤モ早カリシト云フ、而ソ又最初ハ廣東ニ到來スル新聞、其太速ナル全ク電報ニ似タルヲ以テ、人皆之ヲ怪ミ信スル者ナカリシカ、後ニ至リ上海ヨリ蒸氣船ノ入津スル毎ニ、廣東ノ新聞ニ言フ所皆確實ナルヲ知リタリ、因テ此ニ其注進ノ到來セシ順序ヲ言ハンニ、第一ニ至リシ者ハ、ベタンノ沖ニ於テ船舶ヲ會セシ一事ニ在テ、此通信者其船舶ノ數ヲ擧ケ、且ツ其中ニアメリカ人ノ二三名アルニ驚キ之ヲ通シタリ、

其次ニ至リシ者ハ、則チ軍隊ノベタンニ着岸スル事、同地ニ於テ英佛兩軍ヲ會集スル事、及ヒ其軍勢中ノ斥候者支那人ト小戦シタル事ニシテ、

是ハ傳聞ニハ英佛大ニ敗績シタリトナセリ、又其次ノ注進ハ、シンホ、タ
ンコヲノ戦争ニシテ、其最終ニ到來セシ者ハ、北城ノ陥イル事、及ヒ火藥
爆發セシ事ナリ、而シテ其通信者ノ附言ニ曰ク、其爆發セシ者ハ、倉庫ニ藏
メシ者ニ係ルヤ、將ヲ守城者ノ故ヲニ設ケシ地雷火ナルヤ、未ダ詳ナラ
スト、又曰ク、死傷ハ雙方トモ甚タ多シ、但シ支那人ハ殊ニ甚タシト、又曰
ク、廣東擔夫ノ戰場ニ在リシ者、亦多クハ死シタリト、又曰ク、他ノ城砦ノ
如キハ、一戰ニ及ハス降參シタリ、但シ其何ニ由テ然ルヤ之ヲ知ラスト、
通信者又英佛兩軍ノ天津ニ進發スル其景況ヲ言テ曰ク、此都府ヲ防守
スルハ、支那人ノ本意ニ非ス、故ニ英佛ノ兩軍同地ノ城砦ヲ取ラント欲
セハ、容易ニ之ヲ取ルヲ得可ク、且ツ英佛ノ軍ハ重ニ水兵ナレハ、水路ヲ

溯リ之ヲ襲フ時ハ、一舉シテ天津ヲ取ルモ亦難カラスト、又曰ク、是ヨリ
先キ僧格林沁ハ軍ヲ率井引去リ、北京ニ近キ一地ニ據リタリ、是時地方
官ハ辭ヲ設ケテ、英佛兩軍ノ北京ニ向フヲ止メタレハ、僧格林沁ハ十分
ノ時間ヲ得テ、自カラ固ウスルヲ得タリ、只憂フ可キハ、英佛兩軍ハ其地
方ノ言ヲ信シ和議ノ始リシト思ヒ、或ハ隊ヲ分チ人數ヲ減シ、北京ニ進
發センモ知ル可カラス、且ツ水運ノ便利ニ乏シキヲ以テ、大砲或ハ兵糧
ヲ携帯スル能ハス、忽チ韃靼兵ノ爲メニ殲サル可シ、是レ北京ノ近況ナ
リト、已上通信者
ノ言フ所

凡テ戦争ニ付キ、是等ノ詳細ナル報告ハ、皆北支那ノ人ヨリ、廣東ノ會館
ニ達スル所ニシテ、其事實ニ誤リナキハ、實ニ驚クニ堪ヘタリ、若シ當時ニ

在テ此等ノ報告果ソ信スルニ足ルヲ知リ得シナラハ、英佛ノ爲メニ時ト勞トヲ省ク、蓋シ甚タ多カリシナル可シ、因テ今其報告ノ我レニ益アリシヲ言ハシニ、第一支那政府其詭計ヲ英佛ニ行ハントスルハ、其由テ來ルコト久シク、且ツ支那人民ノ之ヲ知ラサルチキモ、亦此報告ニ因テ始メテ之ヲ知リ得タリ、蓋シ支那政府ハ以爲テ夷狄ノ長所ハ水戰ニ在リ、其陸戰ニ至テハ、蹇韃隊ニ劣ルコト萬ヤナリト、故ニ其計略ノ必ラス行ハル可キヲ信シタリ、

斯クテ我軍勢ノ既ニ全勝ヲ得タル後、我カ文官ノ爲ス可キ事業ハ、唯全勝ノ利ヲ失ナハサルニ在ルノミ、是ヨリ先キ吾儕ノ能ク入津スル所ハ、二三ノ港口ニ止リシガ、此度文官ノ談判ニ因リ開港セシムル所其數一

ナラス、思フニ皆數十年ヲ出テズ、帆檣林立百貨輻湊ノ地トナリ、以テ大英ノ海岸ニ送ル財貨モ、亦豈ニ啻ニ昔日ニ倍蓰スルノミナランヤ、而ソ耶蘇教ノ如キモ亦開化文明ノ徳ヲ具ヘ、日ニ東漸シテ支那億萬ノ生靈皆歸依スル所トナリ、以テ夫ノ數月間其地ヲ荒殘セシ兵禍ノ跡ヲ修補シ、外人ヲ惡ミ外國ノ說ヲ排斥スル舊弊ヲ矯メ、四海兄弟一視同仁ノ道ヲ教ユルヲ得ルニ至レハ、是レ實ニ耶蘇教ノ必ラス貴フ可キ所以ナリ、而シテ又其貿易ヲ通スル港口ニ至テハ、新タニニウチワンヲ開キ、以テ魯西亞ノ專横ヲ防キ、之レト貿易ノ利ヲ競フヲ得セシメ、タン州ト天津ヲ開キ、以テ北京ヘノ街道ヲ用フルヲ得セシメ、スワトウヲ開キ、以テ廣東福建寮省ニ接スル一川ヲ用フルヲ得セシメ、加フルニハイナン、臺灣ノ大小

ノ嶋嶼モ亦貿易通商ノ一戰場ト爲ヌヲ得可シ又凡ソ支那ノ内地ニ入
 ラント欲スルハ西人ノ原來甚々願フ所タルニ此度海岸貿易ノ爲メ諸
 港ヲ開キ因テ更ニ内地ニ赴キ精茶良絲ノ在ル所ニ到ルヲ得レハ但事
 ノ障礙ト爲ヌ可キハ兇徒ノ嘯集ナレモ彼ノ輩ハ皆搶奪ヲ以テ目的ト
 爲シ驕奢ヲ貴フコト神ノ如ク其跡近來顯然タレハ彼レニ左袒スル者
 大ニ失望シ且ツ其兇徒ノ如キモ近者上海ニ於テ英佛ノ爲メ擊退セラ
 レ之レカ爲メ悔悟シテ皆謂ラク凡ソ其身ノ生死存亡ハ貿易ノ爲メ盡
 カスルト否トニ在リト因テ其義務ノ爲ヌ可キ者ヲ既ニ知ルニ至レハ
 敢テ憂フルニ足ラサル可ク且ツ此等ノ兇徒ハ畢竟強盜ノ類ニ過キス
 ト雖モ何國ニ限ラス之ヲ憂ヘザル者ナク而シテ西人ノ其時ニ當リ以テ

處置ヌ可キハ局外中立タル可キヤ將タ支那帝ニ左袒ヌ可キヤ之ヲ指
 示スルハ敢テ余ノ爲ヌ可キ所ニ非ラス然レモ此ニ言フヘキハ方今
 支那ノ人士ハ其氣衰頹シテ痿靡振ハサレモ往昔ニ溯リ歴史ニ徵スル
 ニ其難ヲ排シ廢ヲ興セシ其例亦少ナカラサレハ若シ一日其勞力ヲ恢
 復シ以テ夫ノ數十年間精力耗消ノ痼疾ヲ醫シ一舉ノ之ヲ除去スルモ
 得テ知ル可カラサレハ但今日ニ於テハ吾輩ノ功名ヲ取ル可キ者目前
 ニ在テ即チ往テ而ソ勝ツヲ我業ト爲シ以テ我國ノ性質ト名聲ヲ固守
 シ之ヲ失ナハズ彼レノ暴ニ報スルニ暴ヲ以テセシト雖モ向來ハ益交
 際ノ基礎ヲ固ウシ貿易ヲ以テ支那ノ資本ヲ厚ウセシムルヲ計ル可ク
 是レ吾人ノ爲ヌ可キ所ナリ而シテ又今日斯ク我國ノ全勝ニ至リシ者ハ

畢竟此度ノ遠征ニ管スル諸局ノ皆盡力シ道途甚々遠シト雖モ古今未
曾有全備ノ軍馬ヲ修整シ之ヲ客地ニ送リシニ因レハ英人ノ中或ハ費
用ノ大ナルニ驚ク者ナキニ非スト雖モ此全勝ヲ得タルハ誰カ敢テ喜
ハザル者アラシヤ況ンヤ殆ント支那ノ全地ニ貿易ノ場ヲ開キ因テ以
テ得ル所ノ利得テ計ル可カラサルヲヤ

千八百六十年北支那戰爭記卷之三大尾

翻譯北支那戰爭記序

國無大小也。善戰者以小敵大。兵無衆寡也。善戰
者以寡敗衆。余觀於己未天津之役而知斯言之
不我欺焉。蓋清之爲國。土地人民之廣且衆倍。蕞
於英法。夫地廣則食給。人衆則兵足。況金城湯池。
坐據險要。以待懸軍孤進萬里裹糧之敵。固宜百
戰百勝。如摧枯拉朽。然而礮聲一發。八旗失色。君

臣遁逃。歛跡漠北。遂爲城下之盟。雖曰閩寄無人
二
之所致。亦可以見英法之善用兵矣。自國家問罪
臺灣生蕃。清人頗有違言。勢或將至動干戈。於是
衆議紛紜。勇者侮其弱。而怯者懼其大。余謂懼固
不可。侮亦不爲無過。何者。獅子搏巨象。蜈蚣制脩
蛇。鳥雀群集。一鷗毆之。凡物強弱。不必關於大小
衆寡。而吾亦未見狐兔羊豕之能敵牛馬也。然則

彼之爲象。爲蛇。爲鳥雀牛馬。我且不問。我唯利吾
爪牙。奮吾羽翮。迅擊猛噬。以扼其咽喉。則安知英
法之功。不再見於今日也。世或見弱者之易與。而
不務強者之所以強。其不爲狐兔羊豕者幾希。可
不誠乎。此編英人雪印霍氏從軍天津記其所目
擊。自航海屯營攻城野戰。以迄錢穀出納之細。歷
々備舉。苟一披閱。則當時英法制勝之方。可得而

槩見焉。今譯而印行。蓋亦所以使世人知當務之急也歟。抑兵尚機變。敵無定形。今日之清。非昔日之清。若乃膠柱刻舟。而拘々焉。而規々焉。徒曰英法英法。則非善學英法者。余故書以諭讀此編者。并諭不讀者。

明治七年天長節前一日 瓮江川田剛撰

北支那戰爭記卷之三

謬誤追正

- 二十一 第二行 (屯所ノ)ハ(屯所ハ)ノ誤
- 二十一 第三行 (窃カニ)ハ(窃カニ)ノ誤
- 二十六 第四行 (遣リシ)ハ(遣リシ)ノ誤
- 三十三 第四行 (綱結)ハ(綱結)ノ誤
- 四十一 第九行 (宮中)ノ下タ(ヘ)ヲ脱ス
- 百三十八 第九行 (廣ウ)ハ(廣フ)ノ誤
- 百六十四 第三行 (果物)ハ(菓物)ノ誤
- 百七十一 第九行 (人ニ)ハ(人二)ノ誤

支那戰爭記附言

此書ハ千八百六十一年倫敦刊行英國將帥附屬通辨官ゼームス・スウ
ンホー氏ノ著作ニ係リ頃者我局ノ急ニ此書ヲ譯ス可キ命ヲ奉スル
ヤ局内諸人各皆別ニ急務ノ主任ヲ擔當シ且ツ縱令ヒ之ヲ一兩人ニ
委シ以テ其業ニ就カシムルモ原本紙數幾ント五百餘面ニ充ツレハ
一再閱月ノ能ク成就シ得可キニ非ス因テ之ヲ數十箇ニ分チ各人ヲ
シテ輪流遞ニ相譯サシメ八月某日初メテ繕ニ就キ九月某日全ク其
功ヲ竣ヘ其間僅々四十有餘日加フルニ當時ノ主旨轉々成業ヲ期スル
ノ急ナルニ在レハ纔カニ稿ヲ脱スル者直チニ之ヲ活刷シ人々互ニ
面議咨詢シ以テ一定ノ譯規ニ從ヒ全文ノ體裁ヲ齊整均同ナラシム

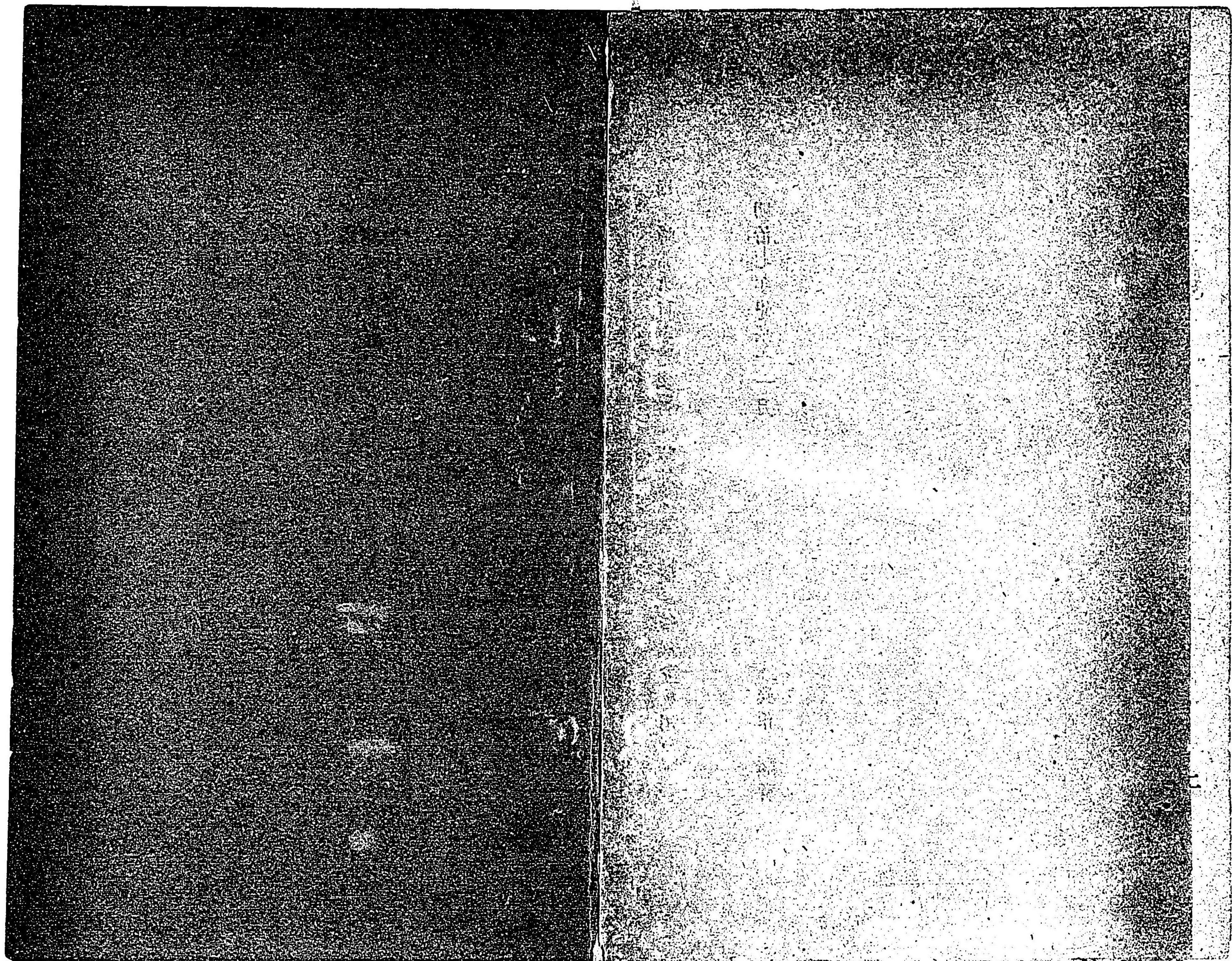
ル能ハス故ニ卷中行文ノ艱澁譯字ノ失當ハ固ト言ヲ待マヌヨミヲソ
ル」或ハ「シヤ」ト記シ「ヨ」ヲ「エル」シ「ン」或ハ「イル」シ「ン」ト記シ又ハ原語ニ
從ヒ「ゼ」ヲ「ラル」ト記シ或ハ譯シテ「將軍」ト記スルカ如キ者間少シトセ
ス讀者請フ答ムル勿レ

一地名物名官名人名ノ左右傍ニ單雙柱ヲ施シ以テ區分スル者ハ本局
ノ舊規ニ因ル然レヒ其間或ハソル某或ハソル某或ハ「ソル」某ト爲ス
類ノ如ク傍柱ノ一定ナラサル者ハ亦訂正ノ餘暇ヲ得サルニ出ツ
一卷中支那ノ地名及ヒ人名等ハ之ヲ填スルニ支那字ヲ用フル時ハ讀
者ノ爲メ特ニ便ナルカ如シ然レヒ當時竣業ヲ期スルノ急ナルカ爲
メ地誌ヲ按シ或ハ近時ノ奏疏類ニ徴シ以テ考索スルノ餘暇ヲ得ス

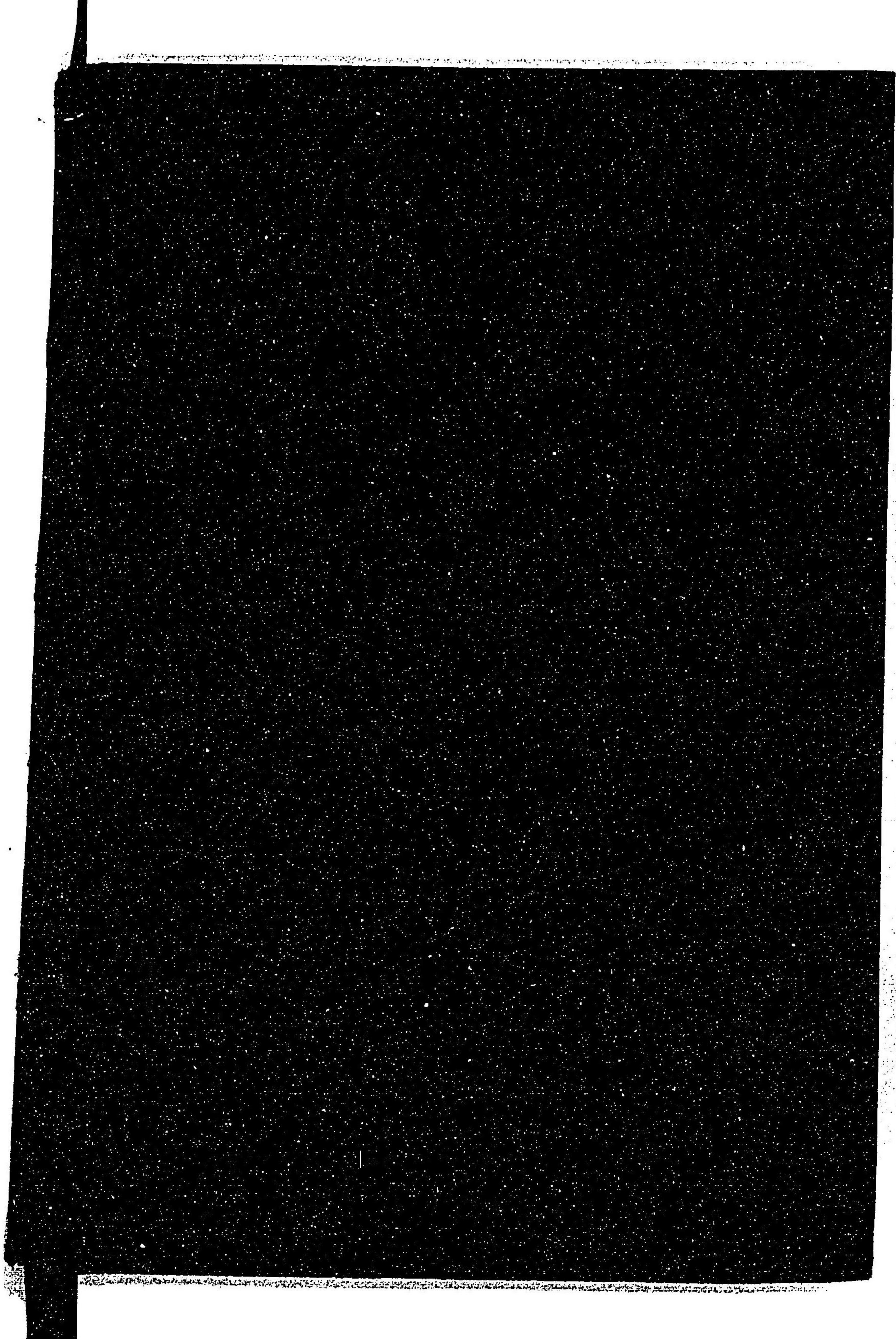
因テ通常人口ニ膾炙スル以外ノ者ハ概テ皆假字ヲ用フ

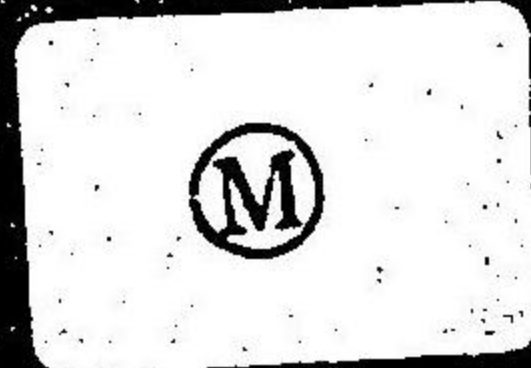
明治七年甲戌十一月

箕作 麟祥



22
138





003005-000-9

22-138

北支那戦争記(千八百六十年)

ゼームス・スウィンホー/著
箕作 麟祥/等訳

M7

ACC-0130

